

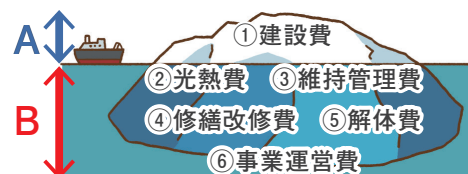
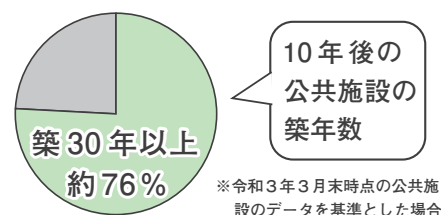


川崎市の公共施設を取り巻く現状と取組

公共施設を取り巻く現状

1 市の公共施設の老朽化が進んでいます

- 10年後には約76%が築30年以上に達することから、施設機能の低下や修繕費用の増大など老朽化に伴う問題が懸念されています。
- また、建設費は氷山の一角で、その後に維持管理費や事業運営費など、より多くの費用が必要となる状況です。



建物を60年使う場合、B（②～⑥の費用）は、A（①の費用）の約9倍

2 人口減少への転換が見込まれています

- 市の人口は令和12（2030）年頃における約160.5万人をピークに、その後は減少過程への移行が想定されています。
- 市の人口減少に伴い、公共施設を維持するための市民1人あたりの費用負担も増大が見込まれる状況です。



このため、将来の人口減少を見据え、維持管理費用などの市民負担増加を抑えつつ、市民サービスの質の維持・向上を図るためには、川崎市が保有する公共施設の床面積（合計）を増やさずに、当面の人口増加にも対応した必要なサービスを提供していく取組が必要です。

地域ごとの資産保有の最適化

公共施設の利用状況や築年数、人口動態・地域課題などの地域ごとの状況を踏まえ、施設の複合化等や使い方の見直しなど、施設や機能の適正配置を考え、川崎市が保有する公共施設の最適化を行うことで、質の高いサービスを安定的に提供することを目指します。

施設の複合化の例

老朽化した
子どもだけが
使えるA施設



老朽化した
高齢者だけが
使えるB施設



施設の複合化

建て替えなどの際に
異なる施設を
一緒にすること



みんなが利用できる
ようになるといいね！

使い方の見直しの例



夕方、校庭を使って
いないなら、ボール
遊びをしたいなあ…



利用されていない時間
帯（隙間）を活用する
ことで、ニーズに応え
ることができます

特定の年代（子ども・高齢者など）が対象など、利用者が限定的となっている施設を複合化することで、誰もが利用できる施設となり、ニーズに応えることができます

【お問い合わせ先】 川崎市 総務企画局 公共施設総合調整室

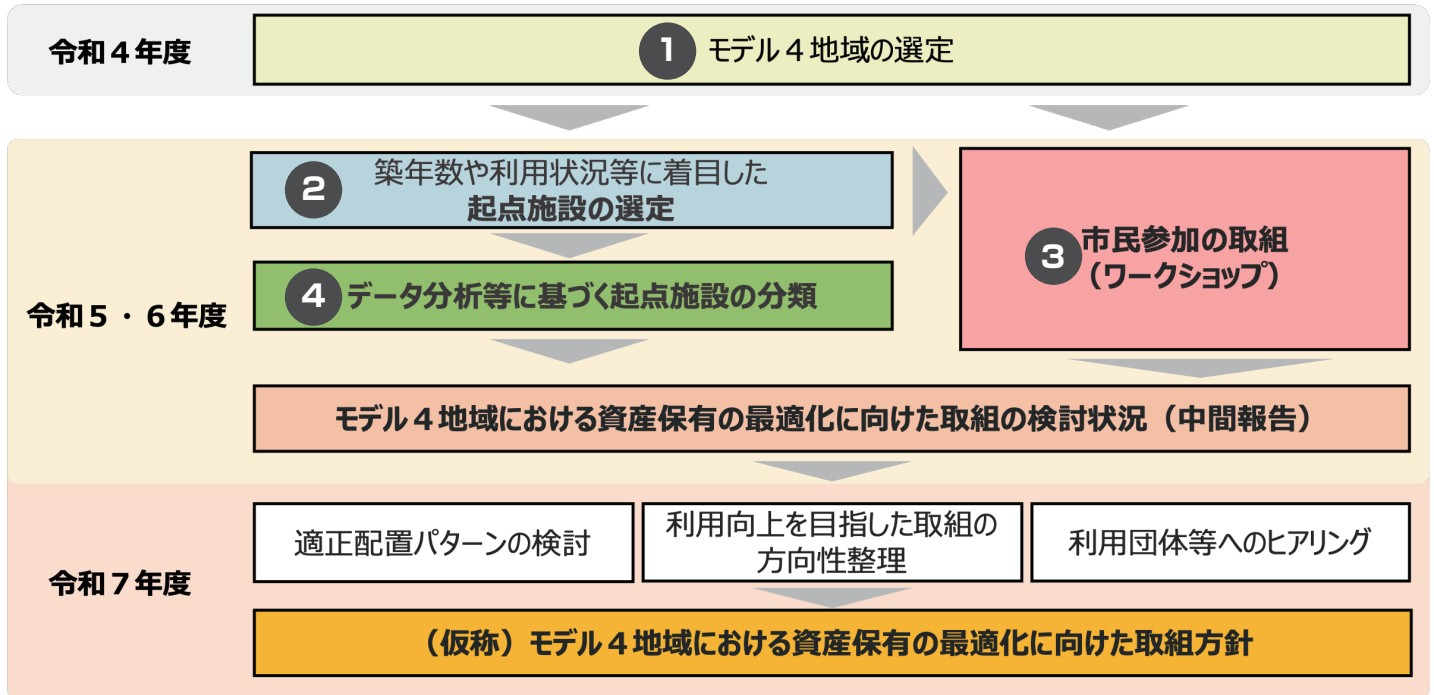
☎ (044)200-2346 (044)200-1227 FAX (044)200-3627

(土・日・祝を除く 8:30～12:00、13:00～17:15)



モデル4地域における資産保有の最適化に向けた取組

地域ごとの資産保有の最適化については、以下のフローのとおり取組を進めています。

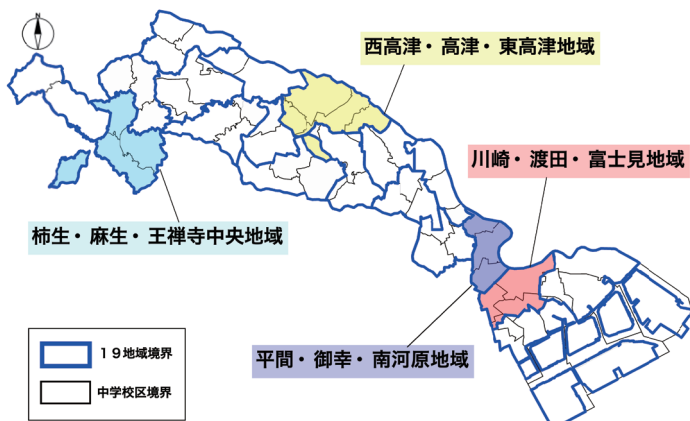


1 モデル4地域の選定

地域の特徴などを基に、市内を2～4の中学校区を基本とした19地域に分け、その中から老朽化している施設の状況等を踏まえモデル4地域を選定し、検討を進めてきました。

モデル4地域

川崎区：川崎・渡田・富士見地域
幸 区：平間・御幸・南河原地域
高津区：西高津・高津・東高津地域
麻生区：柿生・麻生・王禅寺中央地域



2 築年数や利用状況等に着目した 起点施設の選定

モデル4地域において、「より老朽化が進んでいる施設」かつ、「施設の使われ方に課題がありそうな施設」を検討の起点となる施設（**起点施設**）とし、**38施設を選定**しました。

A 起点施設

B 周辺にある
A 以外の起点施設



C 周辺にある
AB 以外の施設
(相手方施設)



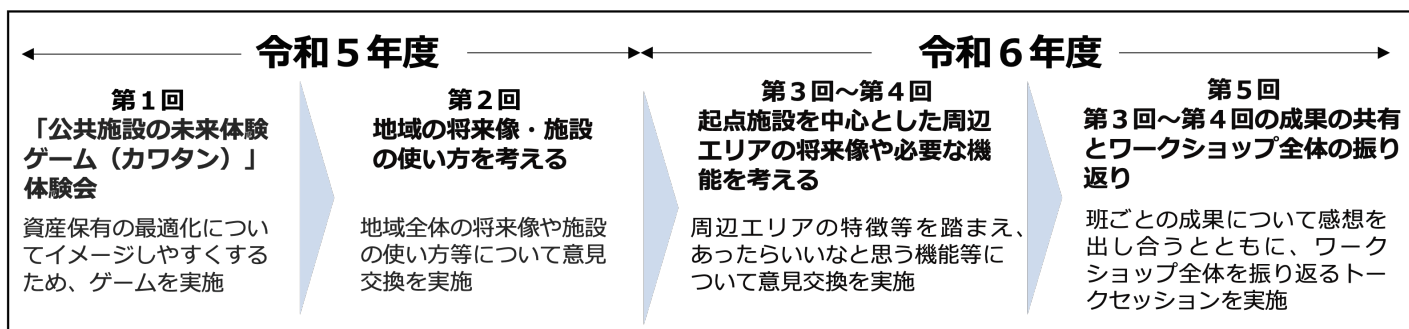
起点施設とその周辺にある施設でグループを設定し、地域ごとの資産保有の最適化を検討します。

3 市民参加の取組（ワークショップ）

公共施設に対する幅広い市民ニーズ等を把握するため、「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」を開催しました。

ワークショップで出された意見から「主な意見・アイデアのキーワード」を整理することで「意見交換から見てきたこと」をまとめ、それを踏まえて「5つの視点」として今後の取組の視点を整理しました。

ワークショップの内容



主な意見・アイデアのキーワード

	川崎・渡田・富士見地域	平間・御幸・南河原地域	西高津・高津・東高津地域	柿生・麻生・王禅寺中央地域
共通の意見	♥多世代交流 ♥子育て支援の充実 ♥文化・芸術活動		♥利用制限の見直し ♥使われていない時間帯の有効活用	
	♥入りづらい ♥知られていない ♥情報発信・PRが大事			♥機能集約や移転なども有効
特徴的な意見	✦安心安全 ✦防災 ✦国際交流		✦企業との連携 ✦多摩川を活用	✦防災 ✦農や自然 ✦元気なシニアの交流

意見交換から見てきたこと

- 公共施設の機能等については、「多世代が交流できる」、「子育て支援が充実している」、「文化・芸術活動が活発」が共通の意見
- 地域ごとには、「国際交流」、「企業との連携」、「農や自然」などが特徴的な意見
- 施設の使い方等について、「利用制限の見直し」、「使われていない時間帯の有効活用」が共通の意見
- 「入って良いのか分からず、入りづらい」、「機能や活動が知られていない」、「施設の情報発信をもっとして欲しい」、「PRが大事」が共通の意見
- 建替等のタイミングで「施設の機能集約や移転なども有効」が共通の意見



5つの視点

<視点1>
様々なニーズに対応した、多目的な機能

<視点2>
地域特性を踏まえた検討

<視点3>
これまでの施設の使い方の再検討

<視点4>
施設の認知度向上

<視点5>
機能集約や移転などの手法も含めた検討



5つの視点を踏まえ、地域ごとの資産保有の最適化に向けた今後の取組を進める

4 データ分析等に基づく起点施設の分類

具体の施設について検討を深めるためには、各起点施設の課題に応じた検討をする必要があるため、課題の度合いを分析・確認し分類する必要があります。そのため、課題の度合いを測るため以下のとおり指標を設定のうえ、起点施設を分類します。

指標 1

利用状況に関するもの

指標 1 - A

低利用な部屋の割合が利用可能な全部屋数に対し、**50%以上**

Q：低利用な部屋とは？



年間利用可能コマ数に対する年間利用コマ数の割合が 33% 未満のものだよ

指標 1 - B

利用度偏差値 **45 未満**

※指標 1 - A で評価できないものに適用

Q：利用度偏差値とは？



1 m²あたりの利用者数（利用度）を同一用途分類内で偏差値化したデータですね

指標 2

施設・機能のあり方検討に関するもの

施設・機能のあり方検討の必要性

※行財政改革第3期プログラム等において、施設の課題が示されているもの

各起点施設で指標 1・2 のいずれかに該当するものを**複合化等検討施設候補（注 1）**とし、いずれにも該当しないものを**利用向上施設候補（注 2）**として、以下のとおり分類しました。

注 1：施設の複合化等の可能性について検討を行う施設 **注 2**：更なる利用向上の可能性について検討を行う施設

モデル地域名	起点施設（38施設）	
	複合化等検討施設候補（24施設）	利用向上施設候補（14施設）
川崎・渡田・富士見地域	消防会館 かわさき健康づくりセンター 川崎能楽堂 旭町こども文化センター 渡田こども文化センター 大島老人いこいの家 南部身体障害者福祉会館 川崎休日急患診療所	—
平間・御幸・南河原地域	地域子育て支援センターふるいちば 幸休日急患診療所 （幸市民館・幸図書館）★	産業振興会館 幸スポーツセンター 古市場老人いこいの家 南河原老人いこいの家
西高津・高津・東高津地域	生活文化会館（てくのかわさき） 男女共同参画センター 梶ヶ谷こども文化センター 地域子育て支援センターかじがや 上作延老人いこいの家 北部身体障害者福祉会館 地域福祉施設ちどり 高津休日急患診療所	高津老人いこいの家 福祉パルタかつ
柿生・麻生・王禅寺中央地域	虹ヶ丘こども文化センター 白山こども文化センター 王禅寺こども文化センター 地域子育て支援センターみなみゆりがおか 王禅寺老人いこいの家 麻生休日急患診療所	麻生区役所 麻生区役所柿生分庁舎 麻生市民館・麻生図書館 麻生市民館岡上分館 麻生スポーツセンター 白山中学校跡地施設 白山老人いこいの家

★なお、幸市民館・幸図書館については、起点施設以外だが、幸市民館がホール機能に着目した資産保有の最適化検討における課題施設となったため、**複合化等検討施設候補**とする。

上記の施設候補については、令和7年度の実行方針策定に向けて、取組の方向性を整理します。また、検討にあたっては、市民参加の取組を基に整理した「**5つの視点**」を踏まえて進めていきます。なお、これまでいただいたご意見やアイデア等を参考としながら、利用団体等のご意見なども丁寧に伺い、取組方針を取りまとめしていきます。